

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171100126), 法人名 (有限会社 ナイスケア), 事業所名 (グループホームひまわりの家 1階), 所在地 (千歳市北斗4丁目14番4号), 自己評価作成日 (平成30年12月25日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員のスキルアップを図る為、様々な勉強会に参加できるようにしている。ご利用者様に安全な生活、楽しい暮らしを提供する支援に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2018\_02\_2\_kani=true&JigvosvoCd=0171100282-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年1月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ひまわりの家は、JR駅から車で10分程、バス停にも近い閑静な住宅街にある2ユニットの事業所である。法人は隣接のデイサービスを始め介護関連事業を展開し、そのノウハウを認知症高齢者の支援に反映している。市内13の同業者が会する「絆の会」の事務局を担い、多彩な研修会やイベントを開催して、地域福祉の向上と事業所間の交流を重ねている。開設14年の関わりを通し、地域とも協力し合って事を為す、良好な関係を築いている。住民からプランター用土を貰い、玄関前を満開の花々で飾り、利用者や行き交う人々の目を楽しませている。長期勤務の職員も多く、積極的に研修に参加し、最新の知識やケアを身に付けている。調理や清掃の専門職員も配置され、特に利用者の楽しみである食事は新鮮食材を活用し、手作りの温かさを大切にしている。管理者と職員は、理念を基本線に、利用者が日々笑顔で楽しく過ごして頂きたいとの思いを共有し、安心の家づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員及び来訪されたご家族様等にも見える場所に提示している。楽しい生活を送って頂くことを常日頃、重視している。	法人の運営理念、ケア理念を事業所の理念として、各フロアや事務室に掲示、パンフレット、通信にも掲載し、職員や利用者、家族等に周知している。職員は日々の業務や会議の場で、理念の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内夏祭り、ラジオ体操に参加し、老人会会長も声を掛けて下さり、交流を続けている。	地域の人達とは、町内の祭りなど一緒に活動する事で交流しており、資源回収等でも協力している。長年のお付き合いから、散歩では挨拶し合い、プランターの土を譲り受け、玄関前を花々で飾り、地域の人にも楽しんでもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の行事の際に地域の方に認知症の方の支援の方法を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況報告、ホームでの活動状況、今後の予定を報告し、互いに意見交換をしている。	会議には、参加可能な利用者を支え、家族や地域代表や包括支援センター職員の協力により、2ヵ月毎に開催している。利用者状況や活動等を報告し、事業所の理解を得ながら、意見や地域情報を運営に活かしている。	メンバーの固定化が見られるので、さらなる参加者の召集が望まれる。家族には会議事録の送付や日程調整を行うなどして、会議への理解を深め、参加を促す取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月発行しているグループホームの新聞を閲覧して頂き、活動内容を報告している。市が主催する地域防災訓練にも参加し連携を図っている。	行政とは、介護保険改正に伴う問い合わせや相談を行い、月毎に事業所新聞を届けたり、介護更新申請等でも担当部署を訪れ、協働関係を築いている。行政主催の研修等にも参加し、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を最優先し、職員一人一人がお互いに確認しあいケアに努めている。	身体拘束廃止適正化指針やマニュアルを整備し、3ヵ月毎の委員会の開催、内容周知と勉強会の開催を通して、職員全員が拘束に関する正しい理解が共有できるように取り組んでいる。言葉での不適切なケアは、職員間で互いに注意し合う態勢である。夜間の居室ドアの鈴取り付けは、本人、家族の同意で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務中やフロア会議で虐待が見逃されていないか確認し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加やフロア会議での話し合いで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時に説明し、不安や疑問点がないか確認し回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪者名簿に職員に伝えたいことを記入していただく欄を設けている。また、ご家族様来訪時に直接、要望等ないかを聞いている。	家族の来訪時や、遠方家族には電話連絡の際に利用者の状況を伝え、事業所への意見等が無いかを聞くようにしている。日々の生活の様子は、写真掲載の毎月の新聞と、職員交替で書く個別の手紙を添えて、家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議、フロア会議等で意見交換や提案を聞く機会を設けており、業務に反映させている。	会議は、フロア会議を中心に、利用者状況や業務全般について協議し、脱衣所の寒さ対策の提案を受け、備品購入に繋げている。ホーム長は、職員との意思疎通を大切に、年1回の面談の他、随時でも話しを聞く機会を作るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを使用し定期的に面談を行っている。また日々の会話、報告から思いや考えをくみ取るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加しやすいように業務を調整し、参加できなかった職員への情報提供をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型事業所「絆の会」で勉強会を提案、参加してお互いの交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関わりの中で要望を聞き、満足できる生活を送れるように努めている。また、思いを伝えられない方には、本人が何を望んでいるかを予測、観察し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や意見を聞き、よく話し合い、良好な関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況に応じ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来る限り本人にして頂くような支援、自信を持って生活を送ってもらう。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時やお手紙等で日頃の様子を報告しています。イベントにも参加依頼し、夏祭り、運動会等のボランティアにも協力いただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族の意見を尊重し、地域、馴染みの人や場所との関わりが続くように支援している。	長期勤務の職員が多く、利用者にとっては安心できる馴染みの人となっている。知人の方の来訪では、気兼ねなく過ごしてもらえよう対応し、正月帰省は家族の迎えで外泊するなど、馴染みの場や親しい関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活では役割分担をしたり、座席の工夫、共通の話題等を提供し孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談にのっている。気軽に来れる環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や意向を聞き、支援に反映している。困難な場合はその方の身になって支援の内容を検討している。	自ら意向等を発する利用者は少なく、職員はできるだけ声掛けをし、思いや希望を引出す努力をしている。アセスメントシートには、些細な言葉も本人の発言として記録し、申し送り等でも職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談をしたり、ご家族、病院や施設からの情報を参考に入居後も細かく聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の引継ぎ、記録、連絡ノートを活用し職員全員が把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議内での話し合いで、アセスメントシートの記録から課題を見極め、職員間での意見交換やご家族様にも相談しながら介護計画を作成している。	毎月の会議で、利用者個別の状況を確認し、全職員の意見を集約し3か月毎に計画を作成している。事前の家族意見の聞き取りでは、不安な心情も受け止め、本人の支援に反映できるように努めている。状態変化時には、医療関係者の助言を取り入れ計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートへの記録や連絡ノートを活用し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに即話し合いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事等に参加できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療の医師による定期的な往診の実施	かかりつけ医の継続も含め、利用者、家族の納得を得た医療機関と連携し、現在は全利用者が月2回の訪問診療を受けている。皮膚科や整形など専門科受診は、職員と家族の協力で行っている。週1回訪問の看護師からも助言や指導が得られ、適切な健康支援に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を受けており、相談や問題点があった際は、訪問看護記録簿に記入し、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者やご家族様との連絡を密にとり、早期退院できるように働きかけている。また、介護医療連携の会に所属し、日頃から病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に主治医、ご家族様に相談し、今後について話し合いを行っている。	契約時に、看取りの指針を基に説明、同意を得ている。状態変化時では、家族、場合によっては主治医も交え今後の方針を確認している。重度化や看取りケアは、チーム体制により、経験ある職員や法人職員のサポートを得て、事業所のできる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議にて実例をあげシュミレーションし急変じに対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し消防署の方にも参加していただき協力体制ができています。地域の防災訓練にも参加しています。	11月に利用者参加の日中想定避難訓練を実施し、次回は夜間想定訓練を予定している。災害時には隣接の系列デイサービス事業所等と協力体制を築き、また職員は地域の防災訓練に参加し、防災意識を高めている。	自然災害等について、職員間で対応マニュアルを確認し、シミュレーションや実践訓練などを行い、非常時に速やかに対応できるようその取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重した言葉遣い、態度を心掛けとうに指導し、職員は配慮して対応している。	職員は接遇マナーの研修を受け、利用者のプライドやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。特に声掛けでは、事業所全体で馴れ合いへの注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定や意思を伝える場面ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の一人一人のペースに合わせて対応し希望にそった生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で選んでいただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をして話をしながら気分よく食事を楽しんでいただく支援を心掛けている。	毎日の食事を始め、季節行事や誕生会でも利用者の食べたい物を聞き取り、美味しく満足できる食事を工夫している。利用者には出来る手伝いをお願いし、食事を共にして落ち着いた食事環境を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量、形態(きざみ、ミキサー食)を提供している。水分量はアセスメントシートに必ず記入し、摂取困難な方にはトロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまでは、ご本人にしてもらい、不十分な箇所は職員にてケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンにてトイレ誘導している。トイレ通所がない際は声掛けしている。	全利用者の排泄状況やリズムを把握し、トイレへの時間誘導で、失敗の不安が募らないように努めている。夜間は安眠や身体状況に配慮し、オムツ交換やポータブルトイレも利用して、本人の負担が少なく済む助助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供を多くし、乳製品、果物を提供。便秘の際は提携医療機関に相談し下剤処方していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な範囲で希望にそえるように努力している。	入浴は週2回程の支援で、状態や希望に沿い、職員二人や同性での介助も行っている。拒む場合も無理強いせず、タイミングを図りながら気持ちよく入浴できるように配慮している。入浴時は本人から昔話や本音が漏れるリラックスした時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や睡眠状況を確認し、ご本人が希望している時に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルで服薬内容を確認できるようにし、変更があった時は薬の目的や用法等を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味にあったレクリエーションや嗜好品を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況に合わせて気分転換も含め行っている。	重度化傾向もあり、頻繁の外出は難しいが、季節の良い時期は、ベランダや駐車場で日光浴やプランターの花々を楽しんでいる。散歩や、時には食材買い出しに誘う事もある。地域の夏祭りや神社祭、隣接事業所のイベントで舞踊観賞したりと、外出の機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じて出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはご利用者様の不穏が招くような刺激がないように配慮し、季節に合わせた装飾品を飾り、行事の写真を提示して、居心地の良い空間作りに努めている。	各フロアは明るく、台所を中心に回廊式の設えで、どこに居ても人の温もりが感じられる空間になっている。季節の装飾や折り紙細工は利用者と共に作り、行事時の楽しい写真も掲示して、利用者の居場所感を支えている。温・湿度等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	通路や玄関先に椅子を置き、独りになれる空間を確保している。テーブル席は気の合うご利用者様同士が話せる配置にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持ち込まれており、居心地の良い居室作りに努めている。	居室には、上棚やハンガーポールが設置され、衣類や雑貨の整理に活用されている。馴染みの調度類の配置や、今まで通りに暮らせるように床敷きマットレスの使用もあり、過ごし易い配慮を行っている。白い壁面には、装飾係が写真や色紙を飾り付け、温かみある居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせてベットや椅子を変更、調整している。安全な生活ができる環境整備に努めている。		